

大館桂桜高等学校

図書館だより

No.1

2017. 4. 28

担当 学校司書



春の読書週間

4月～5月に、読書や図書館に関する記念日や週間が続きます。

4月23日～5月12日 こどもの読書週間

4月30日 図書館記念日 **5月 図書館振興の月**

ゴールデンウィークで学校が休みになる日が多いこの時期に、ぜひ読書をしましょう！

本屋大賞2017決定!

本屋大賞とは、作家が選ぶ文学賞とは違い、読者と感覚に近い書店員たちが面白い、売りたいと思う本を選ぶもので、これまで『舟を編む』『告白』『海賊と呼ばれた男』などが受賞しています。14回目となる本屋大賞2017は、恩田陸の『蜜蜂と遠雷』に決定しました。この作品は、今年1月に直木賞も受賞しており、史上初の直木賞&本屋大賞のダブル受賞となりました。また、恩田陸は2005年に『夜のピクニック』で本屋大賞に輝いており、2回目の受賞も史上初の快挙です。

図書館では、大賞以外にも本屋大賞ノミネート作品を集めて特集コーナーを設置していますので、手に取ってみてください。

大賞

蜜蜂と遠雷

恩田陸 著

幻冬舎

ピアノコンクールを舞台に、優勝を目指す4人のピアニストたちの演奏にかける想い、人生、そして音楽の世界を描いた青春群像小説。

2位

みかづき

森絵都 著

集英社

昭和から平成の学習塾を舞台にした、三世代の家族の物語。

3位

罪の声

塩田武士 著

講談社

未解決事件の闇に迫るミステリー。

4位

ツバキ
文具店

小川糸 著

幻冬舎

伝えられなかった大切な思いを届け、鎌倉の代書屋の物語。

5位

桜風堂もの
がたり

村山早紀 著

講談社

一冊の本を巡る奇跡。「地方の書店」の奮闘を描く感動の物語。

6位

暗幕のゲル
ニカ

原田マハ 著

新潮社

突然姿を消した名画を追う。知的スリルにあふれた長編小説。

7位

i

西加奈子 著

ポプラ社

一人の女性の苦悩に満ちた半生をとおり、生きることの意義を描く。

8位

夜行

森見登美彦 著

小学館

怪談に、青春小説とファンタジーの要素を織り込んだ、著者の集大成的作品。

9位

コンビニ
人間

村田沙耶香 著

文藝春秋

「普通」とは何かを問う、衝撃のリアリズム小説。芥川賞受賞作。

10位

コーヒーが
冷めない
うちに

川口俊和 著

サンマーク出版

4人の女性たちが紡ぐ、家族と愛と後悔の物語。

翻訳小説部門1位

ハリネズミ
の願い

テレヘン 著

新潮社

臆病で気むずかしいハリネズミに友だちができるのか。身につまされる物語。

新着図書より

『クララ殺し』 小林泰三 著 昨年、貸出数1位の

『アリス殺し』続編。今度の真相も100%想像不可能!

『夜を乗り越える』 又吉直樹 著

芸人で、芥川賞作家の又吉のエッセイ。「なぜ、本を読むのか?」

『鋼のメンタル』 百田尚樹 著

クララ殺し

小林泰三 著

東京創元社